日本音楽知覚認知学会講演題名

Effects of ・・・

知覚 太郎，認知 花子

Taro Chikaku & Hanako Ninchi

△△大学XX学部

△△ University

◆◆@△△.ac.jp，■■@△△.ac.jp（3名以上の場合，筆頭のみでもよい）

内容梗概：内容梗概を250字～300字で記述する。引用文献や固有名詞が出てこないように配慮して、実験の目的、分析、結果を簡潔に記述する。内容梗概のフォントサイズは10 ptとする。内容梗概から一行あけてKeywords、一行あけて本文を記述する。Keywords（重要語句）は3〜5個記述する。和文題名は14 pt、著者和名は12 pt、英文題名、著者英名、所属英名、連絡先メールアドレスはいずれも10 ptとする。

Keywords: Music, Perception, Cognition, Psychology, Guideline

# はじめに

本ファイルは日本音楽知覚認知学会研究発表会資料のMicrosoft Word（2016）版標準テンプレートである。その他の環境で原稿を作成することは問題ないが、可能な限りこのテンプレートに沿って原稿を作成することが望まれる。原稿は6ページ以内で、偶数ページになるようにする。原稿の上下左右には最低20 mmの余白を空ける。以下、本ファイルに関する決まりについて述べる。なお、ポスター発表の原稿は原則2ページ（日本語あるいは英語の要旨を左頁に、図表と謝辞を右頁に書く）とするが、2ページ以上書きたい場合は最大6ページとする。

# テンプレートの説明

## 原稿のスタイルについて

このテンプレートを用いて作成される原稿のスタイルは、タイトル、著者、連絡先、所属、内容梗概、Keywordsまでを1段組とし、本文は22文字×45行の2段組とする。文章中の各部のフォントサイズをTable 1に示す。また、使用フォントの一覧をTable 2に示す。なお、英数字は全て半角とする。

本ファイルを作成する際には、「本文」、「見出し1」、「見出し2」等の中でフォントを設定し、該当箇所にこれらを反映させている。

## 図表について

図表には、Fig. 1、Fig. 2、Table 1、Table 2のように通し番号を割り当て、必ず図表の説明文をつける。図表の説明文は英語表記を推奨するが、日本語でもかまわない。図の説明文は図の下に、表の説明文は表の上に記載する。説明文のフォントサイズは10.5 ptとし、表内の文字のフォントサイズも原則として10.5 ptとする。説明文と図表内で使用する言語は、英語あるいは日本語のどちらかに統一する。また、原稿内で英日の説明文が混在しないようにする。なお、図表は天地にまとめる、あるいは、その図表が参照されるサブセクションの最後に挿入するなど、見やすく配置することを心がける。また、大きい図表については、その部分のみ1段組として挿入する。

Table 1 Size of fonts used in this template

|  |  |
| --- | --- |
| 文章の種類 | フォントサイズ |
| タイトル | 14pt |
| 英文タイトル | 10pt |
| 著者和名 | 12pt |
| 著者英名 | 10pt |
| 所属和名 | 12pt |
| 所属英名 | 10pt |
| 著者連絡先メールアドレス | 10pt |
| 内容梗概 | 10pt |
| Keywords | 10pt |
| セクション（見出し1） | 12pt |
| サブセクション（見出し2）※謝辞、参考文献も同様 | 10.5pt |
| 本文 | 10.5pt |
| 図表のタイトル | 10.5pt |
| 謝辞および参考文献本文 | 10.5pt |

Table 2 Fonts used in this template

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 日本語 | 英数字 |
| タイトル | MS明朝 | Times New Roman |
| セクション（見出し1） | MSゴシック | Arial |
| サブセクション（見出し2）※謝辞、参考文献も同様 |
| それ以外 | MS明朝 | Times New Roman |

Fig. 1 Sample figure

カラーの図表を提出することは差し支えないが、資料はモノクロで印刷されるため、モノクロ印刷の上でも十分判別可能であることを確認すること。また、図の解像度が印刷に十分耐えうることを確認すること（300 dpi以上を確保することを推奨する）。

## 謝辞について

必要に応じて、本文の最後、参考文献の前に謝辞を挿入する。フォントサイズ等はTable 1およびTable 2の「謝辞」欄を参照して記載する。

## 参考文献について

参考文献のフォントサイズは本文と同様に10.5 ptである。正しく引用するのに必要な情報は記載すること。著者が3名以上いる場合は、第一著者のみ記載し、「他」、「et al*.*」を入れて省略してもよい。

参考文献リストは、本文の最後にまとめ、著者名のアルファベット順に並べる。参考文献リストは、雑誌の場合は、著者名、刊行年次、表題、雑誌名、巻、ページ、著書の場合は、著者名、刊行年次、著書名、出版社、著書の分担執筆の場合は、著者名、刊行年次、表題、編者名、著書名（ページ）、出版社（出版社が外国の場合は所在地を含む）とする。詳細は、APA *Publication Manual* (American Psychological Association, 2001) の該当箇所に準拠する。なお、日本音楽知覚認知学会の投稿規定が学会Webページで公開されているので、適宜参照すること。

http://jsmpc.org/wp-content/uploads/2019/03/ JSMPC\_JournalRuleJ\_190327. pdf

# おわりに

原稿はページ番号をつけずに、PDFファイルに変換して提出する。以上がわかりやすい原稿づくりの参考になれば幸いである。

謝辞

謝辞のタイトルは、見出し2（サブセクション）の追加を行い、章節項の番号はつけない。本文と同様にフォントサイズを10.5 ptとして記述する。

参考文献

American Psychological Association. (2001). *Publication manual of the American Psychological Association* (5th ed.). Washington, DC: Author.

荒川恵子，水浪田鶴，桑野園子，難波精一郎（1995）．音楽演奏の聴取最適レベルを決定する要因．音楽知覚認知研究，*1*，33-42．

Deutsch, D．(1999). Grouping mechanisms in music. In D. Deutsch (Ed.), *The psychology of music* (2nd ed., pp. 299-348). New York: Academic Press.

村尾忠廣（1987）．楽曲分析における認知．波多野誼余夫編，音楽と認知（pp．1-40）．東京大学出版会．

Oura, Y. & Hatano, G. (2004). Parsing and memorizing tonal and modal melodies. *Japanese Psychological Research,* *46*, 308-321.

梅本堯夫（1966）．音楽心理学．誠信書房．